

会 議 名	平成30年5月第1回定例記者会見
日 時	平成30年5月15日（火） 午後3時00分～
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会</p> <p>それでは定刻になりましたので、ただいまから定例記者会見を始めます。本日は市からの発表事項が2件となっております。</p>
市 長	<p>市からの発表事項</p> <p>森合地区における「おでかけ」の機会を広げます</p> <p>～森合地区の小型バスによる実証運行を本格運行へ移行します～</p> <p>みなさん、こんにちは。</p> <p>それでは発表させていただきます。</p> <p>まずひとつは資料の1です。森合地区における「おでかけ」の機会を広げるということでございます。ご承知のように、地域公共交通網形成計画に基づきまして、日常生活を支える移動手段を確保するという観点から、本年1月から森合地区で実証運行を実施してまいりました。その実証運行の結果をふまえて、本年6月1日（金）より本格運行へ移行いたします。その内容は資料に記してある通りでございますが、エリアとしては森合地区、運行便数は1日あたり往復で各6便～7便運行いたします。これを判断した実証実験の結果を申し上げたいと思いますが、これまでは小型バスによる路線バスを運行してまいりました。1月15日から5月6日までの累計でいいますと、1日あたり97人のご利用がありました。ちなみに4月1日までは103人、4月2日から5月6日までは85人ということで、新年度に入ってから若干利用者は減りましたが、実際に新学期が始まってからは、1日あたり93人という形で回復いたしましたので、今後十分やっつけられるものと判断して、今回本格実施に踏み切ったわけでございます。</p> <p>（資料の）3にアンケートの調査結果をまとめております。こちらをご覧くださいと思いますが、利用者の年齢は、60歳以上の方が61%ということで大部分をしめておりました。目的は買い物や通院が54%、利用頻度は週に3日～4日以上利用する方が44%ございました。今後も利用するとした人は95%で、運行継続を望む声が非常に多かったということでもあります。</p> <p>内容をみてみますと、通勤・通学はやや少なめだったりしておりますので、これからさらに私どもで、地域の小学生や高齢者を対</p>

象とした乗車体験教室の開催やよりよい運行のあり方などにつきまして検討してまいりたいと思っております。なによりもPRをして乗客の増加につとめてまいりたいと考えております。

音楽堂♪ネーミングライツ・パートナーを募集♪

続きまして2つ目になります。

音楽堂のネーミングライツ・パートナーを募集します。今回、ある企業から福島市音楽堂に対するネーミングライツの提案表明をいただきました。私どもは、ネーミングライツはこちらから募集をする場合と、提案募集といって（資料の下の※に書いてありますが）企業側から導入施設を提案する方式で随時受け付けるという方式を取っております。今回音楽堂に対して、ネーミングライツ・パートナーの提案をいただきましたので、今回募集をするというものでございます。募集内容は音楽堂の愛称を命名する権利（ネーミングライツ）を取得したい企業からの提案ということであります。ただ、愛称案にはこちらとしての条件がありまして、ひとつは「音楽堂」という言葉を含む愛称であること、それから愛称には企業名などを付けることも可能です。みなさんご承知の通り、福島市音楽堂は全国的にも大変高い評価をいただいております。アンサンブルコンテストなどの催しものも多数行われております。そして市民に長く愛されておりますので、それにふさわしい名前にしていただきたいということでお願いいたします。ネーミングライツの料金と契約期間は、希望金額といたしましては年間300万円以上ということでありまして、契約期間は来年4月から5年以上ということをお願いしたいと考えております。募集期間は本日5月15日（火）から6月14日（木）までの31日間にしたいと考えております。ちなみに、昨年度の実績といたしましては、児童公園とパークゴルフ場、福島市体育館、武道場におきましてネーミングライツが決定しております。

広域連携のさらなる推進に向け、圏域の首長が懇談 ～福島圏域首長懇話会～

続いて3点目になります。

昨日中核市の市長会ということではじめて出席いたしました。中核市になりますと、中枢連携都市圏をはじめ、広域的な連携が非常に大事となってくるわけでありまして、そのために福島市でも福島圏域の市町村とともに「首長懇話会」というものを設けております。私が市長に就任以来大変忙しいのと、他の首長さん方も3月の議会や選挙などがありまして、なかなか懇話会を開く環境ではなかったためにこれまで開けませんでした。近く5月22日（火）にこの首長懇話会を開催することで、概ね話がまとまりま

	<p>したのでまた皆様にお知らせをしたいと思いますと考えております。今回は具体的な協議というよりは、これまでの連携事業の実施状況につきまして報告をさせていただくのと、これからどのように広域連携を進めていくかを新しいメンバーで意見交換をしたいと思いますと考えております。</p> <p>私からは以上です。</p>
広報課長	<p>質疑応答</p> <p>それでは、ただいまの発表事項の件について、質疑応答に移ります。ご質問がありましたら、挙手・指名の後、社名とお名前をおっしゃっていただき、ご発言をお願いします。</p>
記者	<p>森合地区のバス運行の件について。運行件数で、タイムテーブルはデータでいただけるのか。また、会社は福島交通さんですか。</p>
市長	<p>はい。福島交通さんです。</p> <p>タイムテーブルは決まっているので、後ほどさしあげます。</p>
記者	<p>5月22日(火)の首長懇話会の件について。市長が選挙当選後、連携中枢都市圏構想についてずっとお話されていたかと思いますが、この場でそういうお話をされるご予定はありますか。</p>
市長	<p>そのへんの話はしようかと思っておりますが、それを作ることを前提ではなく、もう少しフリーに、幅広い連携について話し合いをしていきたいと思っております。</p>
記者	<p>その構想について具体的な話し合いということよりも、福島市としてはこういう考えを持っている提案はありますか？</p>
市長	<p>連携都市圏ではなくて、広域連携に関しての我々の考えや、各首長さんも広域連携に対するお考えを持っておられますので、それを意見交換して、それから具体的に広域連携の話を進めたいと思っております。</p>
広報課長	<p>その他ございますか。</p> <p>発表事項につきましてのご質問はございませんでしょうか。</p> <p>なければ、その他に入ります。</p> <p>その他についてお願いいたします。</p>
記者	<p>先週、ふくしま未来研究会の方で、駅前の再開発について辰巳屋ビルの取得をしたという発表をされました。市長は選挙のときか</p>

<p>市長</p>	<p>ら駅前の再開発を公約に掲げられていたと思います。 発表を受けて、福島市としては、今後あの一帯が開発される可能性が出てきたかと思いますが、そうした中で福島市はどのような関わりをしていかれるようなお考えなのかお聞かせください。</p> <p>再開発の話がありますが、私としても福島市中心部の機能強化や賑わいの形成に役立つものだと大変期待をしております。市としては、私は以前より公共施設の戦略的な再編整備と、中心部のまちづくりについて青写真を示しますと、しかもこれは今年中にやりますということで申し上げておりました。この検討は、2つに分かれる形にはなりますが、できれば月内にでもスタートさせたいと考えております。当然、今回の再開発というのは、それに絡んでまいりますので、私としてはその再開発も取り込み、そして連携を取りながら中心部のまちづくりについての青写真を作っていくと考えております。当然、市としては、再開発事業の場合、一定の計画策定などに対し、当然予算措置や助成なども出てまいりますので、そういったもので関わってまいりますし、できる限り早く進めたいと思いますので、役割分担をしながらできる限り協力支援には努めてまいりたいと考えております。</p>
<p>記者</p>	<p>関連ですが、青写真という部分で、現段階でお話しできる部分や民設で公営の施設が入るとか、想定していることがあればお聞かせください。</p>
<p>市長</p>	<p>公共施設に関しても、コンベンション機能は民活を利用して中心部にもってくるという話はしておりました。その観点からすれば、再開発の中で公共の機能も入れるというのはひとつの選択肢ではあると思います。我々としてはやると決めたわけではありませんが、選択肢のひとつにはなるかなと考えています。</p>
<p>記者</p>	<p>例えば、福島市公会堂などが入る可能性も排除はできないということでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>当然コンベンション機能ですから、機能といっても公会堂的なものと、それからいわゆるバンケット機能など、いろいろあってはじめてコンベンションというものはできますので、そういったものを民間とうまく力を併せながら福島駅前で多くのコンベンションが誘致できるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>
<p>記者</p>	<p>今の質問に関連して2点あります。今の公会堂の話も出たのです</p>

	<p>が、最近の全国的なトレンドとしては、駅前にコンパクト・シティという形で、いろいろな自由空間や商業施設をまとめて集約化するという動きが普及しているかと思いますが、市長の具体的なイメージとして駅前が将来的にこうなるといいなど、お持ちの考えが何かありましたらお聞かせください。</p>
<p>市 長</p>	<p>福島の前というか中心部は、福島の中心部だけではなくて、県北全域の拠点でありますし、県庁もありますので、「福島の顔」という面も有していると思います。その点では、今回大原総合病院や福島県立医科大学の保健科学部などもできて、「学」「医療」などの高度な機能も加わるわけで、そこに商業機能やコンベンション機能などのさまざまな高次都市機能を集積させて、県全体の拠点にしていきたいと考えております。</p> <p>例えばみなさんもお承知の通り、福島県は今、人口流出が全国で最大になっているわけなんですね、社会減が。それを食い止めるためにも、福島で都市的なサービスを受けられるということで、福島市にも住むし、あるいは周辺地域にも人口がとどまることが私は重要だと考えておりますので、そういった面で中心部は強化していきたいと考えております。</p>
<p>記 者</p>	<p>伊達市にイオンが建設の話があったかと思いますが、それについての市長のお考えは、いわゆる福島市の中心部との共存関係ができなければという慎重な考え方を示しておられたと認識しておりますが、今回のこれから進んでいく再開発の動きとともに、伊達市のイオンの建設については、今の段階でどうお考えかお聞かせください。</p>
<p>市 長</p>	<p>変わっておりません。少なくとも県北全体、より広い範囲のまちづくりを考えていかなければならないわけでありまして、その点では高次都市機能は欠かせないわけです。これが成立しなくなってしまうと、県北全域がだめになると私は思っております。仮に巨大なイオンができたとしてもですね。私自身は、全体のためにも、まずは福島の中心部のまちづくりを成功させたいと思っております。一方で、機能などさまざまな面がかぶらないとか、そういったものに関しては、むしろ県北全体の魅力を高めることにもなりますので、そういったものはかまわないと思いますが、もろにバッティングしてこちらがつぶれるようになりますと、福島全体のイメージダウンにつながってまいりますので、それは賛成しかねるという立場は変わりません。</p>
<p>広報課長</p>	<p>他に質問はございますか。</p>

<p>記者</p>	<p>ご質問の方はよろしいでしょうか。</p> <p>昨日の中核市市長会が終わったあとに、スイス大使館に行かれたと思うのですが、ホストタウン交流を結んでいるので、今後東京オリンピック・パラリンピックに向けた具体的な動きなどはありますか。</p>
<p>市長</p>	<p>みなさんご承知のように、我々は今回（東京オリンピック・パラリンピック）レガシー&アクションプランを作成いたしました。その中で、スイスのホストタウン交流関連の事業をいろいろ出しております。例えば、ワインヴァンヴィーノやスイスフェスティバル、結・ゆい・フェスティバルなどの事業のお話をして、スイス大使館にもご協力をお願いをしたり、向こうからも「こういうものがあるじゃないか」など、積極的な提案をいただきました。その中で、我々がこれまであまり考えていなかったことで、子どもたちとの交流をしたいというご提案がありまして、それはぜひスイス大使館サイドと連携しながら何か実現できるように取り組んでいきたいと思っております。また、我々がホストタウンをやる上では、事前合宿を誘致したいのですが、これは日本と同じで評議団体の意向に左右されるみたいで、大使館にはそこまでの決定権がないということでしたが、スイス国内でそのような合宿を探している情報があったら、我々にも提供いただいて、そしてアプローチできるようにしていきたいという話はしてまいりました。</p>
<p>広報課長</p>	<p>他にご質問はございますか。</p> <p>閉会</p> <p>よろしいでしょうか</p> <p>それでは、他にご質問等がないようですので、以上をもちまして、本日の臨時記者会見を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>